

1日(土)～3日(月)、明け方東の空で、月と惑星が並んで輝く

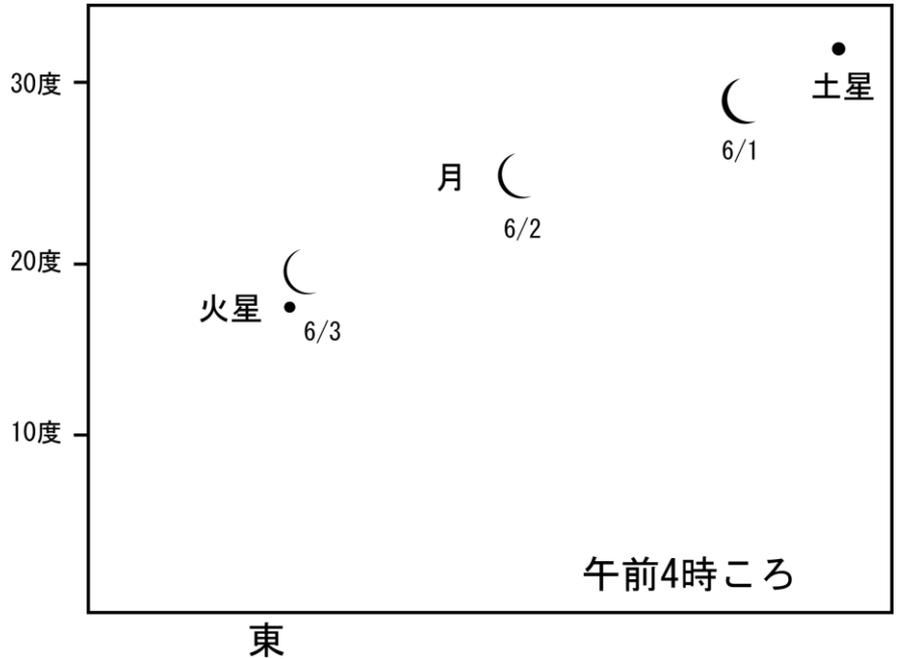
1日(土)の明け方の午前4時ころ、東寄りの空に、細い月が見えています。この月の少し右側を見ると、明るい星が見つかるでしょう。この星が土星です。土星は1等星ですので、天気さえよければ、すぐに見つけられる明るさです。

その後、翌日には、月が土星から離れていきます。そして、3日(月)になると、月が火星とぴったり並んで輝きます。

火星の場所は、月の左下です。火星の色がオレンジ色なので、すぐに見つかるでしょう。

1日の月と土星の接近は、午前2時ころから、3日の月と火星の接近は、午前3時ころから見えます。

ただし、午前4時をすぎると、朝焼けで空が明るくなるので、午前4時ころまでにご覧ください。



22日(土)、ストロベリームーン

6月の満月を、ストロベリームーンと呼びます。このころに、イチゴの収穫時期を迎えるから、また高さが低く、大気の影響で、いつもより赤く見えることが多いなどの、理由があるそうです。6月の空は梅雨の時期で、水蒸気が多く、空がぼんやりと白くなることが多くなります。このため、月もぼんやりと見えることが多くなります。さて、今年のストロベリームーンはどんな色に見えるでしょうか？ 月の色が変わって見えるのは、昇り始めの20時30分から21時ころです。月が空高く昇ると、白色になるので、21時ころまでがチャンスです。月の見える方向は、東南東の空です。高さが低いので、見晴らしがいい所でご覧ください。

28日(金) 月が土星に大接近

28日(金)の午前0時ころ(27日(木)の深夜)、ほぼ半分の月が東の空に昇ってきます。この月のすぐ上に、見えるのが土星です。たいへん間隔が狭いので、注意深く探してください。なお、時間がたつと月が空高く昇りますが、月と土星の間隔は広がります。大接近の様子は、月が昇った午前0時から午前1時ころがいいでしょう。

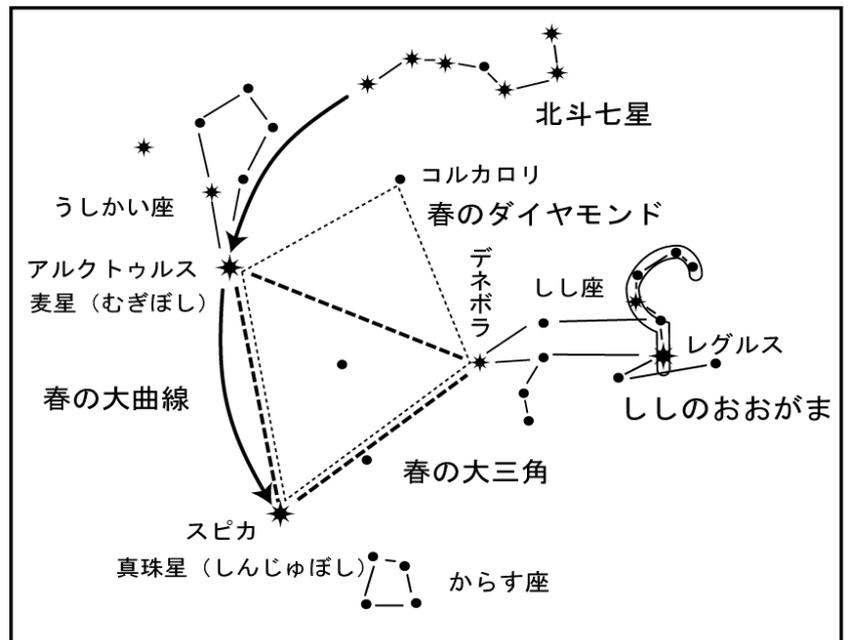
春の星を見つけよう

6月になっても、まだ、夏より春の星が南の空高く輝きます。下の図は21時ころ、南の空を見た時の様子です。左が東、右が西になります。春の星座の中で最も明るい星が、うしかい座のアルクトゥルスで、南の空高く見えています。この星を目印に、下に「おとめ座」の「スピカ」、右下側に「しし座」の「デネボラ」が見つかります。そして、これらの星を図のように結ぶと、「春の大三角」が完成します。

また、ちょうど頭の上に見える、「コルカロリ」と「春の大三角」を結ぶと、「春のダイヤモンド」が完成します。

この他、北の空には、「北斗七星」が輝いています。この先の星の並びを結んで南側に延びていくカーブを、「春の大曲線」と呼びます。この途中には、「アルクトゥルス」、「スピカ」が輝いていることとなります。なお、この二つの星は、春の夜空で明るく目につく星で、春の夫婦星と呼ばれています。いっぽう、「デネボラ」や「コルカロリ」は、少し暗めの星なので、分かりにくいこともあります。

最後に、春の大曲線をさらに右に伸ばすと、からす座の星の並びにぶつかります。4つの星はあまり明るくはありませんが、比較的に見つけやすい星の並びになっています。



最後に、春の大曲線をさらに右に伸ばすと、からす座の星の並びにぶつかります。4つの星はあまり明るくはありませんが、比較的に見つけやすい星の並びになっています。